

令和4年度 第1回五條市総合教育会議 議事録

■日時：令和5年3月30日（木） 14時00分から15時40分まで

■場所：五條市役所 議会委員会室

■出席者

太田 好紀 市長

堀内 伸起 教育長

井本 誓晃 教育委員

寒川 英明 教育委員

大西 修二 教育委員

井田 栄子 教育委員

■事務局等

市 長 公 室 長 平己 富長

すこやか市民部長 田中 久美

あんしん福祉部長 谷口 久美

教 育 部 長 名迫 雅浩

市 長 公 室 次 長 西本 久雄

すこやか市民部次長 桶田 美千子

あんしん福祉部次長 馬場 由美子

教 育 部 次 長 鹿田 里子

教 育 総 務 課 長 井藤 尚樹

学 校 教 育 課 長 奈加 晃典

生 涯 学 習 課 長 安満 義尚

文 化 財 課 長 前坂 尚志

子どもサポートセンター所長 涌本 明

教育総務課長補佐 福本 敬志

1 開会（議事進行市長公室長）

2 太田市長挨拶

教育長はじめ教育委員の皆様には、日頃から教育行政に御尽力をいただき、感謝を申し上げます。

認定こども園、学校適正化が完了し、新たな体制がスタートする。これからはどのように子どもたちの教育環境を整え、勉学に励めるかが重要になってくる。さらなるご支援とご協力をお願いする。

時代の背景と次世代に何を求めるか、子どもたちが過ごしやすい環境を整えるかが我々の役目である。意義ある会議であることをお願いして冒頭のあいさつとする。

■議事録の署名

・井本委員が署名を行うことで承諾。

・地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4の規定により、会議及び会議録は公開とすることで承諾。

3 報告案件

(1) 西吉野農業高校魅力化推進事業 《学校教育課》

【質疑・意見等】

(市長)

卒業式に参加したが、生徒が礼儀正しく感動した。この学校を選んでくれたことに感謝の言葉を述べた。

(教育長)

子どもたちがやらされているのではなく、やりがいを感じて学んでもらえると思う。地域への定住2～3名を目標にしている。昨年と今年は農業大学への進路をもった学生がいる。

(井田委員)

全国募集で、五條を選んでもらい、農業の道に進んでもらうことで学生が頑張っている。イベントなどを通じて市民と交流してもらいながら、今後生徒が増えることを期待している。

(井本委員)

にぎわいフェスで花を購入したが、長持ちし、品質がいい。海外にPRすることが今後大切になると思う。また、市民や民間レベルでこの取り組みをさらに広げるべきだと考える。民間に広げることで、経営的な側面も学んでもらえればと考える。

(寒川委員)

今後は作物の売り込み先などを行政が支援したりすることが重要になる。

たとえば、テクノパークなどにリースでの売込みなどがアイデアとしてある。

(大西委員)

今後は積極的なPRや、経営的な学びも重要になってくる。

(2) 五條市学校適正化事業について 《こども未来課》

【質疑・意見等】

(市長)

懸念事項としてスクールバスのことがある。空いている席があるので、すべての子どもを乗せてあげればいいのかという議論がある。ただし、基本原則は国で定められた距離の設定でおこなっていくことが重要だと思う。

すべての子どもを乗せるとなると、何台のバスを増やさないといけないか。

(井藤課長)

現在は16台で、20台くらいまで増やすのに、1億円程度必要になると想定される。

(市長)

子どものためにお金を使うのはいいのだが、法律を曲げてまで拡充するのは議論する必要がある。

(教育長)

財政上の圧迫や、システムの導入の課題がある。子どもたちにとって、本当にそれでいいのかという議論が必要である。

(井田委員)

学校適正化で学校が統合することについて保護者は不安に感じていることはあるかと思うが、子どもたちからは友達が増えて楽しいという言葉聞いた。統合してよかったという言葉聞いた。ここまで学校適正化が進んでよかったと感じている。

(3) 認定こども園事業 《こども未来課》

【質疑・意見交換】

(寒川委員)

少子化の中であるが、入所率を8割程度にもっていければと考えている。

(大西委員)

4月からの在園児の見込みはどのようなになっているか。

(鹿田次長)

みらいこども園が162名、ゆめこども園が67名、きぼうこども園が52名となる。

(市長)

民間への入所との比率はどうか。

(谷口部長)

ちべん保育園が94名(定員105名)、なかよし保育園が117名(定員120名)となっている。

(市長)

民間への入所児童が少なくなったという問題があったかと思う。令和4年度から令和5年度でどうなったか比較できているか。

(馬場次長)

ちべん保育園が令和４年度が７名、令和５年度が１５名、なかよし保育園が令和４年度が９名、令和５年度が９名となっている。ちべん保育園は０歳児が増えたことがある。

(井本委員)

０～１５歳まで切れ目のない教育が重要になる。中身をどのようにしていくのかを考えていかなければならない。

(教育長)

国が示している架け橋プログラムでは、保育から小学校へスムーズに学びの場を提供していくことが言われている。五條市が先取りで３年前から実施していることは、生育の問題などを就学前からつかんでいこうとしている。教育の内容でこのようにしていくことになるか、重要になる。

(市長)

コミュニケーションなどもスムーズに行えるように、切れ目のない環境を整えることが必要になる。

(教育長)

小中学校については兼務辞令で教員については切れ目のないようにできているが、就学前と小学校では今後必要になってくる。

(井田委員)

私立保育園と小学校のつなぎもできた方がいいかと思う。

(市長)

保育所について民間と公立を選ぶ基準はどこにあるのか。

(教育長)

これまでは私立は特色をもって保育をおこなっていた。

(市長)

保育の内容も、給食なども小さいころから格差を持たせるのはよくないかと思う。小学校へのつながりを考えると、入りにくさにも影響してくると思う。

(寒川委員)

就学指導対象が減っているかと思うが。

(田中部長)

全体の出生数が減っていることが影響していると考ええる。

2. 今後の五條市の教育について

- ・西吉野農業高校魅力化事業の今後について

(学校教育課)

北海道新十津川町や、余市町との交流を図り、農業に従事する学生を増やしていきたいと考える。

(市長)

卒業後、1～2割は五條市に残ってもらえたらと考えている。まちづくりの観点から事業を推進していきたい。経営ができるような流れができればいいかと思う。農水省

からの補助制度も活用できる。その流れを行政がつくっていかなければならない。

(教育長)

個人での事業ではなく、グループで事業を行うことも想定されるのではないか。

(井本委員)

農業だけでなく、林業の視野にいれていくことは必要である。商品をブランド化すること
とも今後必要だと思う。

(市長)

世界の人口が増加し 100 億人を突破する。輸入が難しくなり食糧難になることを見据
えると農業分野が非常に重要になる。日本の耕作放棄地が広がっている中、真剣に考
えていかなければならない。100 年後はどうなっているのか、いま我々ができること
をきっちりやっていかなければならない。

出生数も 100 人を切ってきている。成人式をみても 8 年後は 1 学年 100 人を切る。

お亡くなりになる方は年間 500 人。転出もある。このような中、次の世代にバトンタ
ッチすることを考えていかなければならない。

【意見交換】

- ・ ICT 教育について
- ・ 認定こども園 ICT 化事業について

【教育長 挨拶】

令和 5 年度 教育委員会として力を入れていくこと

①学校教育の充実

②地域と学校、地域ぐるみの子育て

③社会教育との関わり

本日出た意見を活かしていきたいと考える。

閉 会